



復興道路  
復興支援道路

# 三陸沿岸道路(侍浜IC～洋野種市IC)

## 開通までのあゆみ

年	主な出来事	事業への取り組み
平成23年 3.11	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東日本大震災発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国道45号が津波による崩壊・がれき堆積により不通となり、迂回路がないため町が孤立、救助が難航したことを受け、三陸沿岸道路の早期整備が重要となりました。</li> </ul>
平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三陸沿岸道路のルート公表</li> <li>●三陸沿岸道路のルート確定</li> <li>●事業評価手続き開始</li> <li>11.21 ●事業化決定・予算成立</li> <li>11.25 ●復興道路会議</li> <li>2.20 ●中心杭設置式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●震災後、1ヶ月で道路の応急復旧がされるとすぐに、三陸沿岸道路「洋野階上道路(23km)」の事業化へ向けた取り組みがスタート。ルートの公表から確定までは2ヶ月、震災後から9ヶ月で事業化となりました。</li> </ul>  <p>中心杭設置式▶</p>
平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「事業促進PPP」始動</li> <li>●用地取得開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●官民連携による復興事業促進を図る「PPP制度」を導入。設計のスピードアップや効率的な関係機関協議などを実施し、工事着工までの期間を大幅に短縮。</li> </ul>  <p>住民説明会の様子▶</p>
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●埋蔵文化財試掘調査開始</li> <li>●さんごくニュース「三陸国道」を事務所HP掲載開始</li> <li>9.12 ●起工式</li> <li>●小柏川橋 着手</li> <li>●高家川橋 着手</li> <li>●有家川橋 着手</li> </ul>	 <p>◀起工式</p>
平成26年度 ～ 平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ダンプ運転マナーアップ運動の実施</li> <li>H 26 ●埋蔵文化財本調査開始</li> <li>H 28 ●埋蔵文化財調査が完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●土工の本格化に伴い、ダンプ運転による振動・道路汚損等が課題となったことから運転マナー教育やダンプの清掃を開始する等マナーアップ運動を実施しました。</li> </ul>  <p>▲有家川橋</p>  <p>▲高家川橋</p>  <p>▲有家川橋</p>
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大浜川橋 着手</li> <li>●新和座川橋 着手</li> </ul>	 <p>▲新和座川橋</p>  <p>▲土工部施工状況</p>
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小山川橋 着手</li> <li>●吹切橋 着手</li> <li>●高家川橋 完成</li> </ul>	 <p>▲高家川橋</p>  <p>▲小柏川橋</p>
平成31年度 (令和元年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●吹切橋 完成</li> <li>●有家川橋 完成</li> </ul>	 <p>▲吹切橋</p>  <p>▲有家川橋</p>
令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大浜川橋 完成</li> <li>12.12 ●「洋野種市IC～階上IC」開通</li> <li>●小柏川橋 完成</li> <li>●新和座川橋 完成</li> <li>●小山川橋 完成</li> <li>3.20 ●「侍浜IC～洋野種市IC」開通</li> </ul>	 <p>▲洋野有家IC</p>  <p>▲洋野宿戸IC</p>



復興道路  
復興支援道路

# 三陸沿岸道路（侍浜IC～洋野種市IC）

## 早期着工・完成を目指して

### 「復興道路会議」について

一日も早い完成に向けて「スピードアップ」が必要

#### スピードアップのポイント

- 1 全ての関係者に対する事業進捗への合意形成
- 2 国・県・市町村・関係機関の連携による課題解決



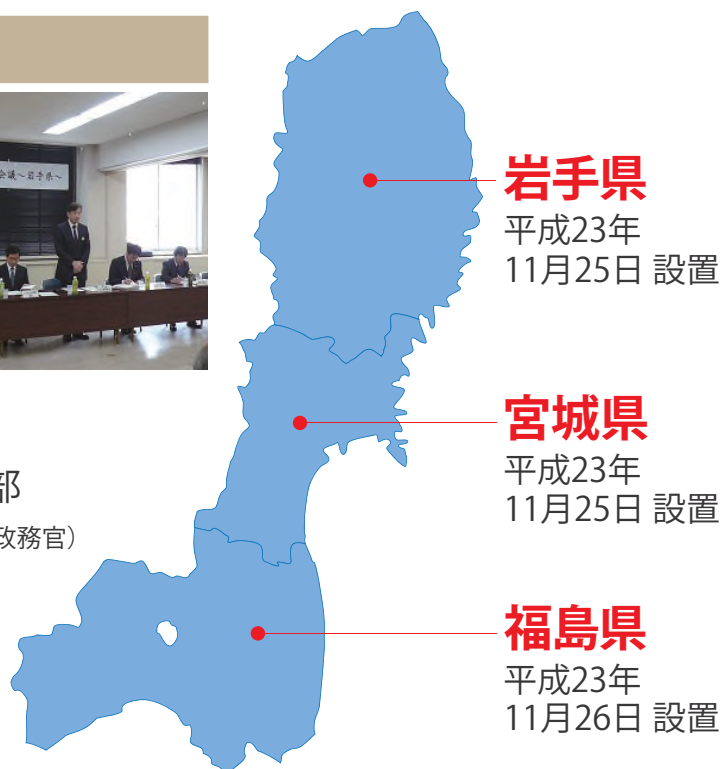
### 「復興道路会議」を設置

#### 会議の構成



▲復興道路会議の様子

- 県知事
- 東日本大震災復興対策本部
- 現地対策本部長（現復興大臣政務官）
- 関係市町村長
- 地元経済界
- 地元メディア
- 東北地方整備局長





復興道路  
復興支援道路

# 三陸沿岸道路(侍浜IC～洋野種市IC)

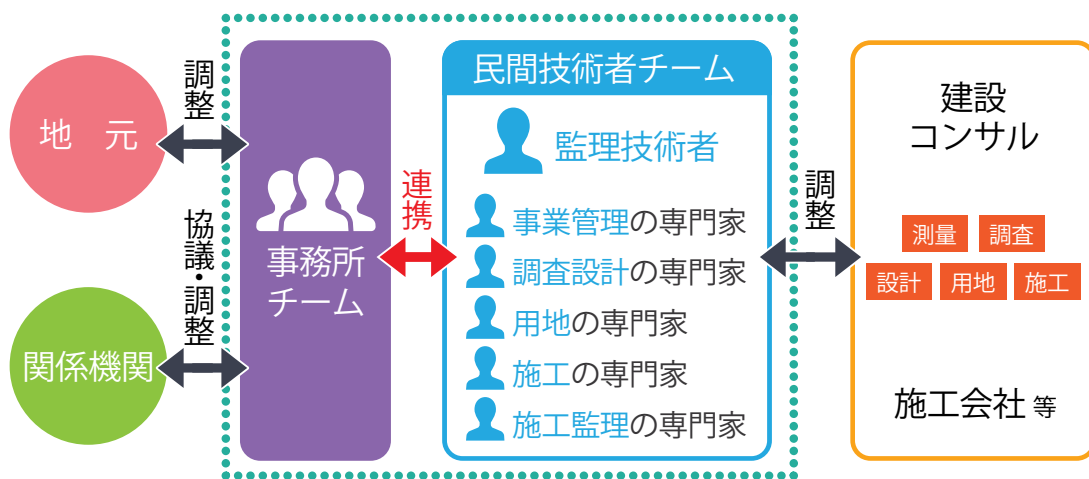
## 早期着工・完成を目指して

### 全国で初めて「事業促進PPP※」を導入

三陸沿岸道路の復興事業では、国内初の事業促進 PPP を導入しました。事業促進 PPP とは、官民がパートナーを組み、官民双方の技術・経験を活かしながら効率的なマネジメントを行うことにより事業の促進を図るものです。

民間技術者チームは、「事業管理」、「用地」、「調査設計」、「施工」、「施工監理」のエキスパート(専門家)で構成されています。  
それぞれが連携しながら、全体の最適な進め方を検討・実施しました。

### 事業促進PPPの事業体制



▲ 関係市町村との協議の様子



▲ 地元説明会での様子



▲ JRとの現地立ち会いの様子



▲ 電力関係者との協議の様子(立会)



▲ 設計コンサルタントとの道路詳細設計打合せ

※PPP・・・Public Private Partnership の略(官民連携・公民協働の意)



復興道路  
復興支援道路

# 三陸沿岸道路（侍浜IC～洋野種市IC）

## 早期着工・完成を目指して

### 各分野の専門家が専任・常駐し 迅速な合意形成に向けて邁進

#### 専任・常駐

- ▶ 専任・常駐により、即座に課題への対応が可能
- ▶ 発注者チームとPPPチームの密接情報交換が可能となり、あらかじめPPPで検討した内容を発注者と調整することにより、方針の食い違い手戻りを防止
- ▶ 関係機関や地権者の疑問や要望に対して迅速に対応
- ▶ 地元・関係機関と接する機会が増え、地元要望や問題点の早期把握が可能



▲関係機関協議の様子（立会）



▲道路詳細設計打合せ

#### 各分野（事業監理、調査・設計、用地、施工）の専門家の配置

- ▶ 発生した課題に対して、各分野の専門家による多方面からの検討により、解決策を早期に提示
- ▶ 施工担当によるフェージビリティの確認、用地担当による用地リスクの考慮、地元要望の反映等により設計成果の品質が向上し、施工時の手戻りを最小化
- ▶ あらかじめ事業の各段階でのリスクを抽出し、戦略的な対応策の立案により事業の遅延を防止
- ▶ 事業監理、施工担当による実現性の高い工程の立案と進捗管理

#### 課題

- H25年度の工事着手を目標。
- 複数におよぶ関係機関との設計協議などに膨大な時間を要する。

#### 取り組み

- 協議相手の全関係機関とPPPが一同に介して協議を実施。
- H24年から協議を複数回実施。

#### 短期間での合意形成を実現



▲ 関係機関協議の様子



▲ 関係機関現地立会の様子

分かりやすい  
説明資料を用いた  
地元協議の促進



#### 説明会参加者の声



災害が発生した時には幹線道路のダブル化で心強い。

病院への送り、迎えが早くなり楽になりそうだ。



物流が活発になりそうだ。





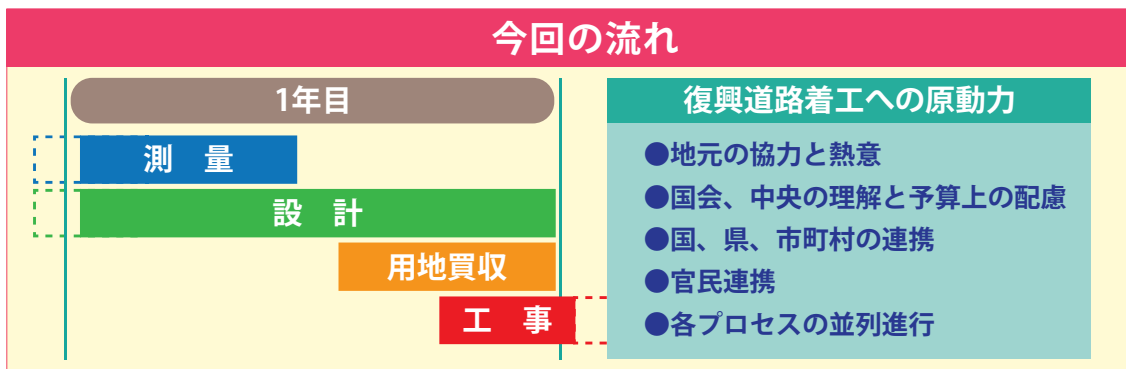
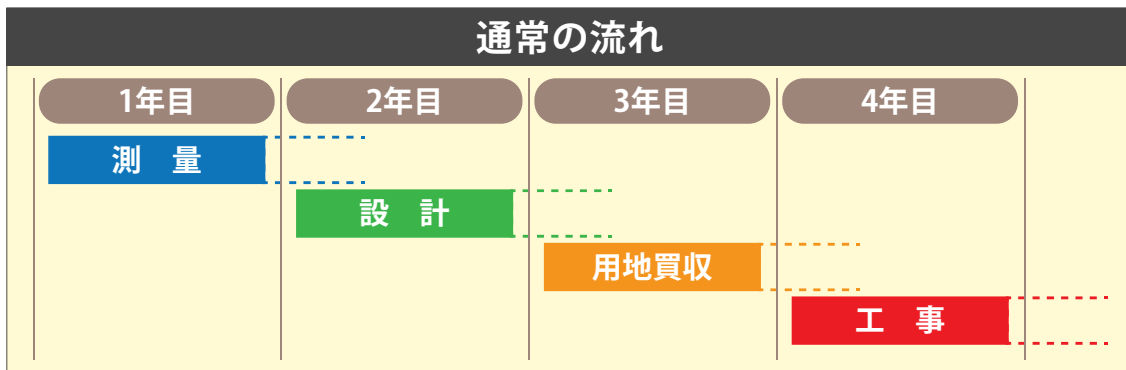
復興道路  
復興支援道路

# 三陸沿岸道路（侍浜IC～洋野種市IC）

## 早期着工・完成を目指して

### 事業プロセスを並列で進めました。

通常は新規事業化から工事着工まで、4年かかるところを、「地元の協力と熱意、国会、中央の理解と予算上の配慮、国、県、市町村の連携、事業促進PPPに代表される官民連携、各プロセスの「並列進行」が原動力となり、大幅に短縮して実施しました。



震災・復興10年  
進もう!次の東北へ

復興道路

# 洋野階上道路 工事見学会

令和元年10月24日(木) 八戸工業高等専門学校 生徒



震災・復興10年  
進もう!次の東北へ

復興道路

# 洋野階上道路 工事見学会

令和2年 9月 8日(火) 洋野町立中野中学校 生徒



震災・復興10年  
進もう! 次の東北へ

復興道路

# 洋野階上道路 開通前イベント

令和3年 3月 5日(土) 近隣町内の方々

## 開通直前の洋野階上道路で ウォーキングイベントを開催しました。

回 覧

**祝** ウォーキングイベント  
～参加者募集!～

※参加費無料(※参加費は別途)と記載して、ウォーキングイベントと題させていただきます。  
※参加費は別途、※参加費は別途と記載して、ウォーキングイベントと題させていただきます。

■集合日時 **3月13日(土) 9:30 受付開始** (※受付は、近隣のコンビニエンスストア等にて)

■集合場所 オーションビュースタジアム前 (※集合場所は、近隣のコンビニエンスストア等にて)

■参加費 沿線住民を中心とした50名(事前申込制、先着順)

■コース 横手から横手までの往復約2km

■申込期間 3月9日(火)～11日(木) 8:30～17:15

8:30～17:15	ウォーキングイベント参加費(無料)
10:00～17:15	ウォーキングイベント参加費(有料)
11:30～17:15	ウォーキングイベント参加費(有料)

※お天候や参加人数のうえ、開催中止やコースの変更などはお知らせいたします。  
※当日雨天の場合は中止となります。  
※お天候や参加人数のうえ、開催中止やコースの変更などはお知らせいたします。  
※当日雨天の場合は中止となります。  
※参加費は、以下のいずれかの方法で事前にお申し込みください。  
※参加費は、以下のいずれかの方法で事前にお申し込みください。  
※参加費は、以下のいずれかの方法で事前にお申し込みください。  
※参加費は、以下のいずれかの方法で事前にお申し込みください。

申し込み先  
三陸国道路事務所(洋野町役場大野庁舎) TEL. 77-2114  
※窓口で道路事務局長のサインが必要となります。



▲集合写真



▲洋野町長のご挨拶



▲ウォーキングの様子



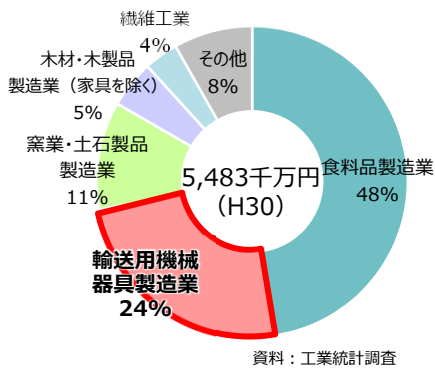
▲三陸国道事務所から  
事業概要説明

# ◆輸送効率化による 生産性向上を支援

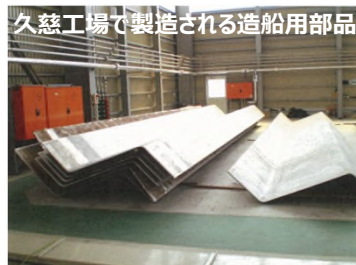
## ◆三陸沿岸道路沿線の地域産業について

- ◆ 久慈市の製造品出荷額等のうち、約2割が輸送用機械器具製造業であり、食料品製造業に次ぐ地域の主要産業の一つ。
- ◆ 八戸市に本社のある造船会社では、久慈工場でコルゲート(造船用部品)等を製造し、セミトレーラを利用して八戸本社工場に輸送。
- ◆ 今回の開通により輸送時間が短縮、業務効率化や新たな輸送体制の検討が可能となり、生産性向上を支援。

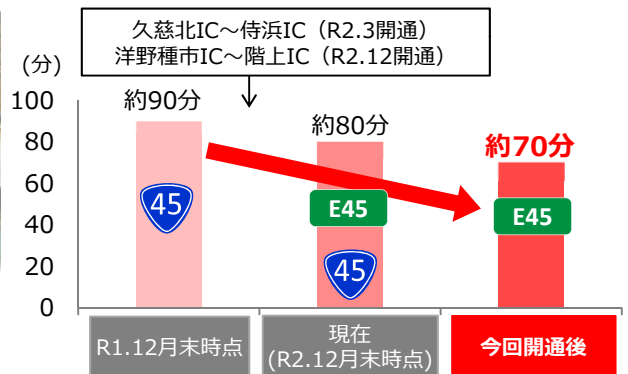
### ▼久慈市の製造品出荷額等の割合



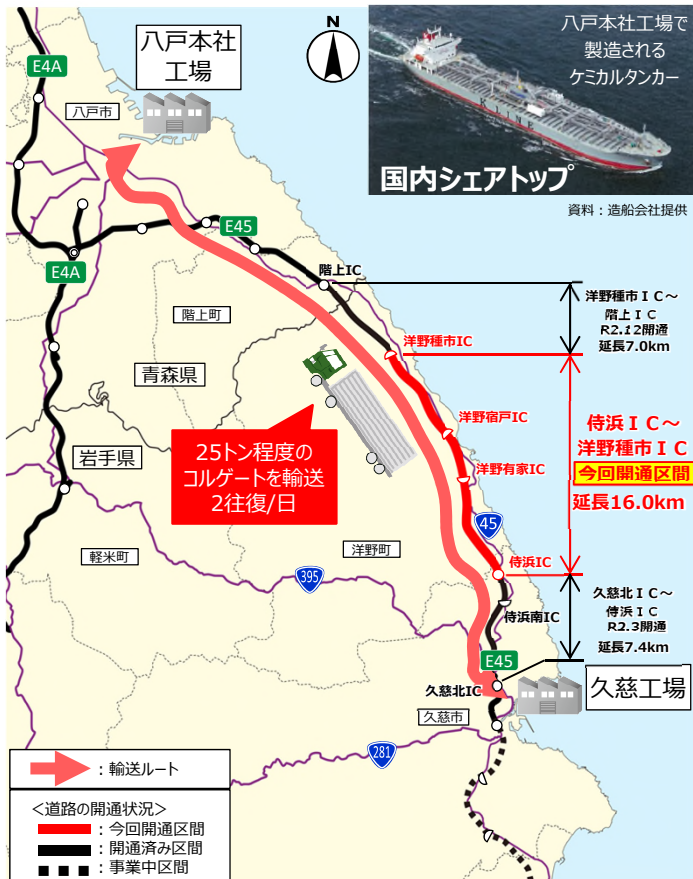
### ▼コルゲート(造船用部品)



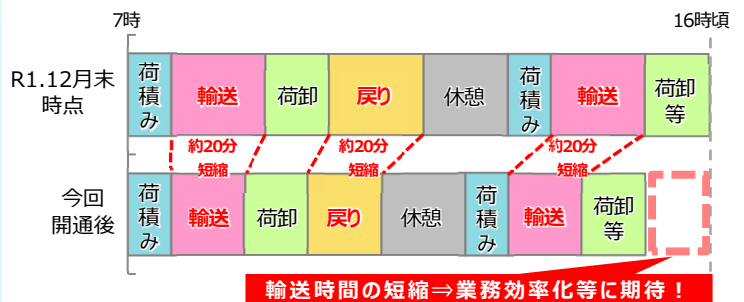
### ▼久慈工場から八戸本社工場までの輸送時間の変化 (セミトレーラにおける輸送時間)



### ▼久慈工場と八戸本社工場間の輸送ルート



### ▼久慈工場と八戸本社工場間の輸送スケジュールの変化



### 《造船会社の声》

- ・久慈工場から八戸本社工場までコルゲート(約25トン)を輸送している。
- ・輸送スケジュールは主に1日2往復しており、年間の輸送量は約1万トンである。
- ・開通によって輸送時間が短縮されることで、その他の事務作業等にも時間を費やすことができ、業務の効率化が図られる。また、新たな輸送体制の検討も可能になる。

(R2.12 造船会社ヒアリング結果)

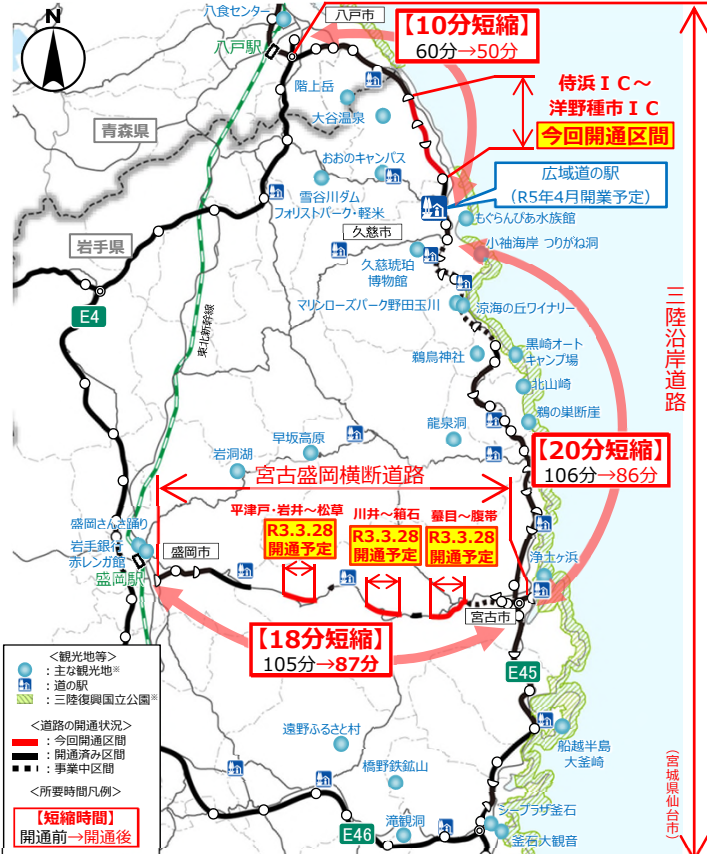


# ◆観光振興の活性化を支援

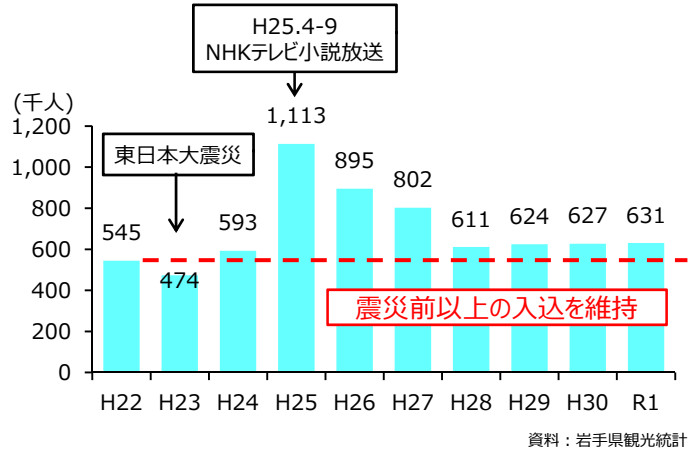
## ◆三陸沿岸道路沿線の観光について

- ◆ 久慈市の観光入込客数は震災前以上の入込を維持。R1年における久慈市の県外滞在者のうち、約4割が関東居住者。
- ◆ 久慈市では、三陸沿岸道路の整備による交流人口の拡大を見越して、久慈北IC周辺へ「広域道の駅」がR5年4月に開業予定。
- ◆ 今回開通区間を含めた三陸沿岸道路・宮古盛岡横断道路の整備により周遊性が向上し、地域の観光振興を支援。

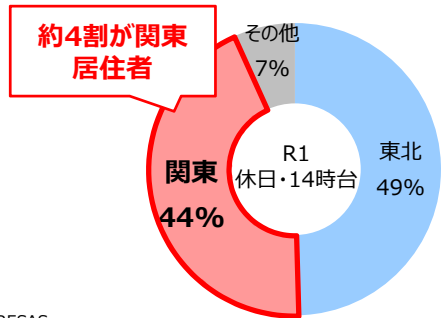
▼岩手県内の主な観光地と地域間の所要時間の変化



▼久慈市の観光入込客数の推移



▼久慈市に滞在する県外居住者の割合



資料：RESAS  
 出典：株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」  
 ※R1年各月の休日を対象に、日中(14時台)の久慈市への滞在人口を集計(年計約2万8千人)

※地域間(盛岡市、宮古市、久慈市、八戸市の市役所間)の所要時間は、平成27年度 全国管轄・住居交通静態調査を基に算出。  
 開通前：R2.12月末時点  
 開通後：宮古盛岡横断道路及び三陸沿岸道路全線開通後(H27以降の開通区間)は道路速度を基に算出。  
 ※主な観光地は、自治体観光協会、自治体統計書等に掲載の主要観光地点等を参考に、沿岸部の市町村及び盛岡市に立地するものを抽出。  
 ※三陸復興国立公園は、東日本大震災により被災した三陸地域の復興に貢献するため、H25.5に創設された国立公園。

### 「広域道の駅」関係者の声

- ・三陸沿岸道路の整備で新たに生まれた交通需要を活かして、道の駅を拠点とした地域の活性化に繋がりたいと考えている。
- ・道の駅や観光地等との移動時間が短縮されることで、スタンプラリー等沿岸周遊観光向けのイベントが企画しやすくなり、岩手県沿岸地域一体となった観光振興に繋がると期待している。

(R3.1 ヒアリング結果)

### ◎広域道の駅の概要

三陸沿岸道路の整備による交流人口の拡大を見越して、R5年4月に久慈北IC周辺に「広域道の駅」が開業予定



### ■「広域道の駅」イメージパース



### ■事業コンセプト

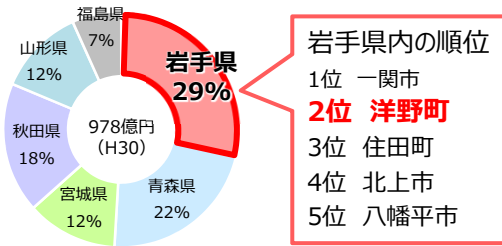
- ◆ 広域市町村の玄関口  
広域の魅力を集結し、既存の道の駅や観光地への流れをつくる
- ◆ 広域市町村の新たな魅力の創出  
三陸沿岸道路を活用し、地域外からもひとを呼ぶ施設
- ◆ 地方創生の拠点  
広域市町村の地域振興・活性化を図る

# ◆畜産の安定輸送による肉質向上を支援

## ◆三陸沿岸道路沿線の畜産業について

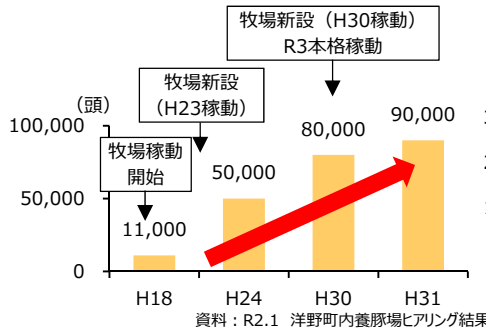
- ◆ 岩手県の豚産出額は東北1位。洋野町における豚産出額は県内上位に位置しており、地域主産業の一つ。
- ◆ 洋野町内養豚場では、H18年稼動以降、農場を新設しており、豚出荷頭数は年々増加。豚の輸送において、輸送の安定性は重要。
- ◆ 今回開通により、輸送時間の短縮や横揺れ発生頻度が減少。豚に与えるストレスの軽減に繋がる等、安定輸送による肉質向上を支援。

▼東北6県別豚産出額割合と岩手県市町村別豚産出額の順位

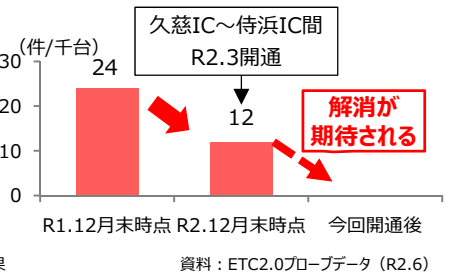


資料：生産農業所得統計、市町村別農業産出額（推計）  
※岩手県内の順位は秘匿の市町村を除く

▼洋野町内養豚場の豚出荷頭数の推移



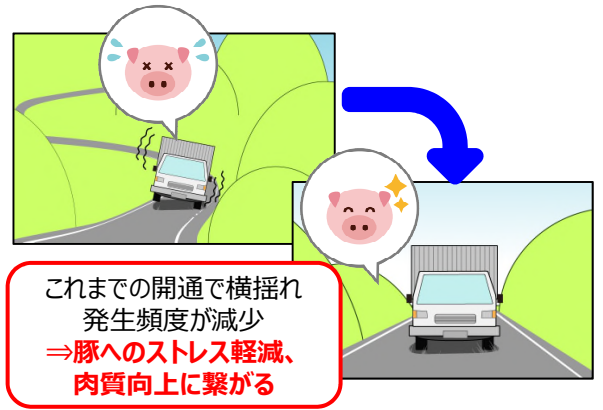
▼横揺れの発生頻度の変化 (久慈IC～洋野有家IC間)



▼洋野町内養豚場に係る飼料の搬入と豚の搬出ルート



▼輸送中の横揺れによる豚へのストレス(イメージ図)



### 《洋野町内養豚場関係者の声》

- ・豚を輸送する際、所要時間が長いことやカーブ区間等で横揺れが発生することは、豚へのストレスに繋がる。
- ・これまでの開通で輸送時間が短縮、横揺れの減少によって、輸送中の豚へのストレス減少にも繋がった。
- ・今回開通によって、輸送中の豚へのストレスが更に減少し、肉質向上に繋がることを期待している。

(R2.1 ヒアリング結果)